

東京鐵工組合日鐵支部代表

田口	龜藏	坂東	保一
中川	惣壽	鹽野	政五郎
横石	信一		

附 則

来る廿八日午前八時より始業のこと

解雇者は同時より入場道具調のこと

右第十三條中三名の嘆願者とは内川、山崎、伊藤の三名にして、共に不具若くは病弱の故を以て他工場に新に入るべく、體格検査に合格せざるものなり。此嘆願に對しては日鐵は山崎を除き他の二名を留任せしめたり、二名の警告者とは工長川邊武彦、職工小野幸助兩人にて、川邊は長として怨まれ、小野は官憲に内通したりとして、日鐵支部は兩名の馘首を中村氏に求めたるなり。

△解雇職工の浪人支部

事件解決と共に舊日鐵支部の解雇者八十八名は、直に一ケ年分の會費を積み立て、日鐵浪人支部を組織し、オルガナイザーとして活動するの申合せをなせり。

尙三名の株主職工中 三橋友造 井口與七兩名は會社に留任せり (大正十年一月卅日)

足立機械製作所破壊事件

從來我國に惹起したる數百千回の労働争議中、唯一の事件とも目すべき足立工場の大破壊は、泉忠なる一職工を中心として捲起されたる事件なり

泉忠が東京鐵工組合創立者の一人なるは、別記日本鐵工組合争議の卷頭に詳にしたるところなるが、泉が黒表所掲の人物なるを知るや知らずや、市外吾嬬町足立製作所(所主足立泰治)は大正九年十二月九日同人を職工として採用し、隅田村分工場に勤務せしめたり。

△鐵工組合の思想的背景

東京鐵工組合と最も思想的關係を有する團體に新人會あり、新人會は當初帝大在學生及卒業者に依りて、組織せられたる思想研究團體にして、全日本鑛夫總聯合會常任理事麻生久氏等最初の指導者たり、次で赤松克麿、宮崎龍介氏等其中心人物として活躍す。現に赤松克麿、新明正道氏等新人會同人が、最近組織せられたる社會主義同盟の執行委員たるを見ても、同會内部の思想傾向を窺ふに足るべし、東京鐵工組合は之と深き交渉を有し、現に組合の根據地たる大崎五反田方面の會員は木曜會なる